

第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概 要)

先般開催した、令和8年度第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和8年7月1日(水) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 主な意見等

- 原木の入荷について、エゾマツ、トドマツは概ね順調、カラマツについては、引き続き少なく、在庫不足を感じている工場が多い。製品の荷動きについて、エゾマツ、トドマツは全体的に悪く、カラマツ梱包材は注文が入っているとの声が多く、全体的に横ばいで推移している状況。素材、製材、チップの価格については、保合から強保合で推移している状況。道有林について、令和7年度は56万7千m³の立木販売予定量に対し、54万1千m³を販売済み。執行率は95%で、入札状況としては、97件中7件が応札なしもしくは不落となっており、山土場までの出材距離や公道までのトラックの運材距離の長さなどが入札意欲に影響をしている状況。令和8年度の立木販売量は、令和7年度と同量の56万7千m³を予定している。
- 森林組合について、植付を順調に終え、現在は下刈を中心に、主伐や間伐を並行して実施している。山土場の原木在庫は、順調に搬出されているが、少ない中で推移している。工場の原木在庫は、不足気味で推移しており、出材は多くはないが、出荷増要請は続いている。合板向け製材工場について、単価が見直され値上げの中で推移している。製紙向けバイオマス原材料についても、おおむね出荷要請が多い。製材関係について、短納期、小ロット、多品種というのは変わらない中で、梱包材パレットについては値上げで推移している。トラック等の輸送コストについて、値上げの方向で動いており、製品価格に転化できるか状況を見ながら進めることとなる。ラミナについて、あまり良くない状況だが、一方で、公共物件や非住宅部門には、一部集荷増の話があり、一定量の販売が見込める見通し。
- 製材工場、チップ工場の原木の在庫状況は、概ね2、3か月程度で不足感はない。トドマツについて、栈木や製材向けは厳しいが、梱包材は引き合いが出てきているとの話がある。カラマツについては、逼迫している状況が続いていたが、現在は割と集めやすいとの話がある。
- 素材生産について、全体的には概ね順調に推移している状況。一方で、年々生産事業量が増え、林業従事者の高齢化が進み、担い手不足のため、事業実行が厳しくなっている。素材生産と造林作業の一貫作業について、地拵えや植付に人手がとられる場合があり、供給量及び生産量を確保するためには、どうしても造林作業の担い手対策が重要あり、川上事業者だけでなく、木材産業全体で考えるべき課題。

- トドマツについて、一般建築向けの工場では、大体2か月くらいの原料の在庫を保留している事業者が多く、製品の受注状況については、一般建築向けの数量提示が依然として少なく、価格が下げ傾向にあるが、生産調整を行う状況には至っておらず、低位安定で推移している状況。
カラマツについて、在庫の減少傾向が続いており、確保する動きが活発化しているような状況。移出合板向けの需要が根強いいため、工場の原料在庫がなかなか増えない状況。仕入れに関して、不安を抱く工場も多いため、素材公売においては、応札が活発になっており、高い価格で推移している状況。銘木市への出品については、一定の数量が出ており、落札単価は、夏場に向かってやや下がっているが、ナラ、メジロは前年度を上回る高値で落札されている。プレカット業界について、個人受託の低迷で受注獲得に苦戦を強いられていたが、一方で、春先に発生した建築確認申請の遅れなどにより、最近の受注は多いが、今後は不透明と聞いている。非住宅の受注については、ある程度動き出しているが、慎重な見方が多い。
- トドマツの原木在庫は、順調に推移している状況だが、これから夏場を迎えるため、原木の痛みが心配。栈木について、道内向けの注文が多く、供給も併せて順調だが、今後は不透明な状況。夏場の暑さ対策で、型枠業者が少し仕事量を抑えることが予想されるため、その影響により数量が落ちると考えている。トドマツの JAS の改正により、しばらく停止させていた2×4工法の取組を再開することで、今秋から動き出しそうな状況となっているが、需要に対する供給ができるかが課題。
- 原木在庫は、例年少ない時期だが、天候や運送屋に恵まれたためか、順調に集まっている状況。
トドマツは、昨年夏場の虫害のため買い抑えていたことや劣化材等の処分により、冬場の在庫が少なかったが、今年は虫害を発生させないよう上手に使っていききたい。
- 苫小牧バイオマス発電事業について、昨年度は出力抑制を30回程度受けていたが、今年は地域資源バイオマス事業に認定されたことで、北電からの出力抑制は受けなくなった。石狩地域バイオマス発電所は、今年1月に操業開始したが、火事等のトラブルがあったため、4月中旬から本格稼働している状況。

〈中東情勢の影響〉

- ・ オイル等について、先行きの懸念が払拭されたわけではないが、なんとか事業は継続している状況。
- ・ 従来型の乾燥機の燃料代が月100万円近く上昇して厳しい、石油由来の接着剤の高騰や不足により、集成材、合板の供給に懸念がある、また、林業機械のディーゼルエンジンに使用するアドブルーなどが不足しているために供給が滞っているとの話もある。また、結束テープや養生シートが不足しているため、住宅着工の遅れに懸念があると聞いている。一方、石油由来製品の価格の上昇は、プラスチックから木材の転換のチャンスかもしれないとの声もある。
- ・ チェンオイルや重機の故障時に使用する作動油についても、不足が懸念されている。燃料オイル系、砂利代及び高性能林業機械の高騰により、生産コストのかかり増しのため経営が厳しい状況が続いている。
- ・ 石油由来の副資材の影響が、当初は、PPバンドや梱包する資材自体がないということで、慌てていたが、出荷できないという状態ではない。入手する方法は、各工場によって逼迫度が違う。また、港に資材の置き場がないため、素材生産が出来ず出荷制限をする話だったが、1か月分ぐらいの資材の入手は出来ている状況。